横浜市立 鴨志田中学校　　令和4年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「感動を分かち合おう　目標を高く掲げよう　真理を追究しよう」
〇自らの生き方を創り出す子どもを育てます。【知】
〇個性豊かに生きる子どもを育てます。【徳】
〇たくましく生きる子どもを育てます。【体】
〇横浜に生きる子どもを育てます。【公・開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

＜人と学ぶ・人に学ぶ・自ら学ぶ力＞
・「あったかさ」に表される豊かな気持ち、地域を思いやる気持ちをもつ子　・互いを認め合い、伝え合い、学び合う子　・主体的に学習に取り組む子　・運動に楽しく取り組み、健やかな体をはぐくもうとする子　・リーダーシップを発揮し、貢献する子

具体化した資質・能力

中期取組目標

「チーム鴨志田」として、全教職員が生徒と保護者にとって安全・安心で、活力と魅力のある学校づくりを目指します。
・特別支援教育に基づく、教職員の「生徒理解力」向上を図り、授業や生徒会活動を充実させて生徒の自己有用感を醸成します。
・「学校運営協議会」を中核として、地域との交流促進と地域人材の積極的活用に取り組み、より一層の地域密着（連携と安定化）を目指します。
・ブロック内小学校と地域密着を共同歩調として、連携・協働をより一層進めます。
・教職員の人材育成を通して、組織対応力を向上させ、豊かで魅力的な教育活動を組織的に展開します。
・「情報教育実践推進校」としての経験を活用して、国の「GIGAスクール構想」に基づき、ICT機器の「ChromeBook」「ロイロ・ノート」「Google for education」等を授業や生徒活動において、積極的活用を継続します。
・新型コロナ禍において、感染症防止に最大限努めるとともに、生徒主体に「できる・やれる・可能なこと」の実践を継続する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①教育相談や各種アンケート等の結果を教職員間で共有し、個に寄り添った指導・支援を継続実施する。②弁護士によるいじめ予防授業の継続から、「考え、議論する」授業と多角的・多面的な見方の定着化を図る。③生徒が安心して豊かに生活できる「あったかい学校」づくりと生徒中心の主体的な取り組み継続を図り、より一層の「安全・安心な学校」づくりに取り組む。
担当　学習指導部人権・特活指導部生徒会	

豊かな心に関わる本校の状況

生徒一人ひとりは一見落ち着いて穏やかに生活している。だが、自分を中心に物事を考えて行動する生徒や、軽い気持ちで相手を傷つけてしまう発言をする生徒もいる。また、そのような態度に対して、我慢することで解決してしまおうとする生徒も多い。自ら解決する能力を備える手助けができればと考えている。

今年度の目標

・生徒にとって魅力的な教材による「道徳の時間」の充実をはかる
・望ましい集団活動により体験活動を充実させる
・子どもの社会的スキルの育成と安全・安心な学級・学校風土の醸成し、確かな人権感覚・意識の育成をめざす

目標を実現するための具体的行動プラン

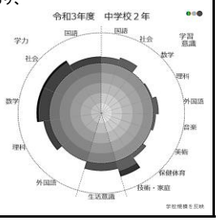
上半期	・道徳教育の要となる「特別の教科　道徳」において、今生徒に必要なことを取り上げることで、多様な考え方、他人を思いやる気持ち、自分を大切にする心、感謝の気持ちをもてるようにすることをめざす。 ・全職員で道徳の授業づくりを行い、道徳授業の公開を進めていく。 ・公開授業週間などを通じて、地域・保護者、家庭との交流を図れる授業を展開できるような工夫をし、生き方について共に学べる時間を設けることで、考えるきっかけを作っていく。 ・生徒会を中心に「あったかい学校」作りに向けて、あらゆる場面で安心して過ごせるよう、環境作りに努め、学級集団はもちろん、学年・地域とのつながりを築くようにする。 ・教育相談やスクリーニング、各種アンケートを全職員で分析し、個々の生活や授業に活かしていく。 ・社会的スキルを育成、豊かな人間関係を育めるような展開を多く作っていく。
下半期	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	新型コロナ禍での対応を踏まえ、①小学校との学習接続を意識し、「9年間で育てる子ども像」を意識した授業づくりを継続する。②少人数・TT授業における効果的な学び方を工夫し、学習習慣と基礎学力の定着化と授業改善、学力向上に努める。③「情報教育実践推進校」としての経験を活用し、ICT検討員会を中核に横断的推進を一層図り、ICT支援員の助言・支援をもとに全教科がICT機器の積極的活用を継続し、充実化を図る。
担当　教育課程委・学習指導部・ICT検討委	

学力向上に関わる本校の状況

市の学力学習状況調査（予備）より、現2，3年生とも特に社会科おいて、市の平均を大きく上回っていた。 社会科では、2，3年共通して学習意識も高く、「本やインターネットで調べる」「学習したことを、日常や社会に出ていかそうとする」といった設問で肯定的な回答の割合が大きかった。
他の教科でも、3年生の学習意識は高いが、2年生との違いは、その教科を「好む」、「大切だと思う」という意識よりも、社会科にみられた主体的に知識を得、利用しようとする意識にあることがわかった。
例えば、国語科：学習を通して使える言葉を増やそうとする。学習したことを、日常の生活や社会に出て役立てようと思う。
英語科：進んで人とコミュニケーションをとりたいと思う。
技術・家庭科：学習したことを、よりよい生活のために生かそうとする。
などである。
数学科は学習意識は市平均と変わらないが、学習結果は大きく上回った。明らかに正答率が高かった問題には、「作図を具体的な場面で活用する」「比例、反比例を用いて具体的な事象を考察し、表現する」「データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断する」などがあり、他の教科に見られる意識が正答率に関係しているようにもうかがえる。



今年度の目標

自分の考えを発信するとともに、他者の考えを受け入れて、課題解決をはかることができるようになる。さらに高度な問題解決能力へとつなげる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	教科の特性もあるが、次のような具体的な行動により、目標に近づける。 〇ICTをどのように利用するか引き続き各教科や教育課程委員会で検討する。 ・関心をひきつけ、主体的な学習を呼び起こす ・他者のとかかわりを持つ手段とする ・コロナ渦以前の指導の良さに近づける手段とする。 ・家庭学習や自習時に利用する。 など 〇多くの生徒が自分の考えを表現できる「考える授業」を設定する。 〇習熟度に合わせ、余裕のある生徒は説明等の学習活動の機会を設ける。 〇質問しやすい場を設定する。 〇表現をしやすい学習環境を整備する。
下半期	

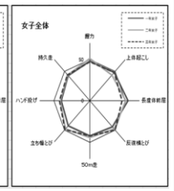
健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①新体力テストの結果から、体力向上に向けて生徒一人ひとりの具体的な目標に繋げ、体力向上を目指し、実践する。②一校一実践運動である「縄跳び」に授業で継続して取り組み、一層の体力向上を図る。③過年度の「全国健康づくり推進学校優良校」表彰の実績から、学校保健委員会において生徒主体の取組を継続し、小中ブロック内で共有・連携する。④「地域運動部活動事業」でインストラクターからの指導により、スポーツの楽しさを味わい楽しむ資質・能力とデジタル教科書を使用して健康な生活を実践する資質・能力を育成する。
担当　生活指導部保健・保健体育科	

健やかな体に関わる本校の状況

（1）健やかな体に関する生徒の実態
・市の平均に比べて朝食の摂取率が高く、睡眠時間についても市の平均より長い。
・運動時間は市平均より高いものの、2時間以上の運動時間は市平均より低い。

（2）これまでの学校の取組状況
新体力テストの結果は、毎年全国の総合評価の数値を下回っている。昨年度は特に、ハンドボール投げにおいては、全国・横浜市双方の平均値よりも低い結果となった。ハンドボール投げでは、練習する時間のない中での測定とはいえ、キャッチボールなど投げる動作に親しんでいない生徒が多い。ベースボール型競技、ネット型競技の単元で投げ方や腕の振り方を学ぶことが必要である。



今年度の目標

運動に親しむとともに、ひとり一人が自分に合った課題をもって体力向上に取り組む姿勢を養う。健康に対する認識を高め、その保持・増進を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	《保健体育科での取組》 ・毎時間の授業において、ランニング・補強運動・縄跳びに全員が取り組み、継続的に体力・筋力の向上を図る。 ・体力向上1校1実施運動「なわとび」に伴い、体育大会でも「大縄運動」を実施し通年を通して体力・筋力の継続的な向上を図る。 ・保健委員会との連携を図り、スポーツ障害、けが、睡眠、心の健康や食育について学び、考える機会を増やす。 《他教科での取組》 ・家庭科では、食育との関連を図り、自分の食事に心の健康や食育について学び、考える機会を増やす。
下半期	《保健体育科での取組》 ・養護教諭との連携を図り、職員や生徒への救命救急講習やAEDの取り扱い方法や救急処置の講習を行う。